

---

令和7年 第4回 対馬市議会定例会会議録(第7日)

令和7年12月8日(月曜日)

---

議事日程(第5号)

令和7年12月8日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

---

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

---

出席議員(15名)

1番 針谷 広己君	2番 吉野 元君
3番 諸松瀬里奈君	5番 内山 吉寿君
6番 佐伯 達也君	7番 安田 壽和君
8番 糸瀬 雅之君	9番 陶山荘太郎君
10番 坂本 充弘君	11番 脇本 啓喜君
12番 黒田 昭雄君	13番 波田 政和君
14番 上野洋次郎君	15番 大浦 孝司君
17番 春田 新一君	

---

欠席議員(2名)

4番 東 圭一君	16番 島居 真吾君
----------	------------

---

欠 員(なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長	志賀 慶二君	次長	藤原 亘宏君
係長	平山 公年君	係長	小島 亮君

---

説明のため出席した者の職氏名

市長 ..... 比田勝尚喜君

副市長	俵 輝孝君
副市長	一宮 努君
総務部長	庄司 克啓君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	犬束 幸吉君
しまづくり推進部長	藤田 浩徳君
観光推進部長	平間 博文君
市民生活部長	阿比留忠明君
未来環境部長	三原 立也君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	阿比留正臣君
農林水産部長	平川 純也君
建設部長	原田 武茂君
水道局長	桐谷 和孝君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	日高 勝也君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
消防長	井 浩君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	神宮 秀幸君
農業委員会事務局長	栗屋 孝弘君

---

午前10時00分開議

○議長（春田 新一君） おはようございます。

報告します。島居真吾君及び東圭一君から欠席の届出がっております。また、教育長の糸瀬英俊君から欠席の届出がっております。

ただいまから議事日程第5号により、本日の会議を開きます。

---

**日程第1. 市政一般質問**

○議長（春田 新一君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、2人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） おはようございます。11番議員、市民協働の脇本啓喜です。

大分市や香港で発生した大火災でお亡くなりになりました方々にお悔やみを申し上げますとともに、今もお避難生活を余儀なくされている方々に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を御祈念申し上げます。

さて、金曜日に糸瀬議員がおじいちゃんになって、飲み過ぎ、食べ過ぎに気をつけたいとの発言がありました。体の健康もですが、心の健康も大切です。口は災いのもとと申します。私は特に、言い過ぎに気をつけて、冷静な質疑となるよう努めてまいりたいと存じます。よろしく願いします。

1 番、上対馬病院建て替え後ろ倒しに伴う計画見直しについて。

(1) 上対馬病院建て替え後ろ倒しに対する市長の受け止めについて。

①「大きな病院がたくさんある都会なら、医療は安心」、そんなイメージが崩れ始めています。患者は多くとも深刻な赤字を抱え、そこに医師不足、建物の老朽化など複合的な要因が重なり、都市部の病院が相次いで閉院に追い込まれています。全国的な医療機関の経営危機状況に関して、市長の所見を求めます。

②上対馬病院建て替えの後ろ倒しは、建築資材や人件費の高騰、人口減少に伴う受診・入院患者の減少、県病院企業団の経営の悪化などから、病院としてではなく、診療所としての建て替えに変更されるのではと、市民から危惧する声が上がっています。市長の見解を求めます。

(2) 上対馬病院の診療所化を回避するために市が行うべきことについて。

①(1)を踏まえると、現在の建て替え計画を見直し、例えば現在の建屋の大改修の検討も行ってはどうかとの意見もありますが、市長の見解を求めます。

②①を行わないとすれば、上対馬病院の建て替えを診療所としての建て替えに変更とならないようにするため、市としてどのような手を打つつもりなのか、市長の答弁を求めます。

2 番、上対馬病院の役割と今後期待する将来像について。

(1) 上対馬病院は、昭和11年4月に豊崎村産業組合医院として開設され、その後、国民健康保険直営病院を経て、昭和43年4月に離島医療圏組合設立とともに同組合上対馬病院となり、平成21年4月1日に長崎県病院企業団傘下の長崎県上対馬病院に改称されました。

このような変遷を経ながら現在に至るまで、北部対馬市民には欠かせない地域病院として大切な役割を担っています。

具体的には、対馬北部地域の1次医療から、救急医療、急性期から慢性期にわたりカバーしています。また、在宅医療に力を入れており、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、通所デイケアを併設し、地域に密着した医療を展開しています。上対馬病院ホームページには、「対馬北部の地域住民のニーズに対応しうる中核的医療機関として機能充実を図り、小児から老人医療に至るまで、予防・治療・機能回復訓練に及ぶ地域包括医療の担い手として、地域住民と

ともに、健康な町づくりに努めることを病院経営の基本方針としています。」と記載されています。

以前、上対馬病院建て替えについて、市長からは現在の機能維持を求めるとの答弁がありました。本当に現在の機能維持だけでよいのか大いに疑問です。改めて市長の所見を求めます。

(2) (仮称) 北部対馬アクションプランの協議の場で、上対馬病院の将来像について、地域包括ケア構築に向けてどう取り組んでいくのかを中心に、市長の所見を求めつもりでしたが、上対馬振興部によれば、医療や介護については、協議予定はないとの回答がありました。

令和6年6月議会で、(仮称) 北部対馬アクションプランは観光費として計上をしているが、観光に特化したプラン策定ではないと市長は答弁しています。答弁との食い違いが出てきていると私は思います。なぜ、(仮称) 北部対馬アクションプランで上対馬病院建て替え後ろ倒し問題をはじめとする医療・介護に関する分野を取り上げなかったのか、市長の答弁を求めます。

3番、対馬市における貿易振興について。

(1) 上対馬病院の現在の建て替え予定地である比田勝港国内ターミナル背後地を白紙に戻し、貿易振興拠点とする考えはないか、改めて市長の答弁を求めます。

(2) 建て替え予定地を白紙に戻さないとしても、対馬市における貿易振興は重要だという点は、これまでの市長発言からは十分認識できています。昨今は、民間事業者による輸入についても動きが始まっています。今後の対馬市の貿易振興策について、市長の所見を求めます。

あとは答弁によっては、この場で再質問させていただきます。お願いします。

○議長(春田 新一君) 市長、比田勝尚喜君。

○市長(比田勝 尚喜君) おはようございます。脇本議員の質問にお答えいたします。

初めに、全国的な医療機関の経営危機状況について所見を求めるとのことですが、日本全国の医療機関は、物価や人件費などの高騰により、かつてない経営危機に直面しており、倒産する医療機関も、2025年は過去最大のペースで推移しているところでございます。

また、法定耐用年数を超える病棟を持つ病院は、全国で全体の27%に上り、かなりの病院で耐用年数を超えているという状態になっているということが、調査で明らかになっており、私もこれらの実態については、大変危惧しているところでございます。

しかしながら、この状況に、国も医療機関や介護施設などを対象に、経営支援、処遇改善などの補助金等を補正予算に盛り込む方針を、先示されたところであります。

今後は、当然、物価上昇に伴う診療報酬の改正等も、来年度には見込まれるものの、医療機関の経営において、いましばらくは大変困難な状況が継続するものと思われまます。

ただし、長崎県病院企業団では、この状況を打開すべく、既に経営改善対策に取り組まれているとお聞きしております。

次に、診療所としての建て替えに変更を余儀なくされるのではとの、市民から危惧する声が上がっていることに対する私の見解についてでございますが、これまでも、事業主体であります長崎県病院企業団と協議をする中で、上対馬病院は、北部対馬地域の市民の安全と安心を補完する、大変重要な医療機関であることから、現在の診療科目を継続することや、必要な病床数を確保することなど、強く要請してまいりました。

また、長崎県病院企業団からも、上対馬病院については、2次救急医療機関として引き続き存続する方針で、対馬市の医療提供体制の維持に取り組んでいくという、心強いお言葉を頂いております。

今後も、対馬市の医療提供体制の維持については、長崎県及び長崎県病院企業団と密に連携を取りながら、市民の安全と安心に取り組んでまいります。

次に、現在の上対馬病院を大改修し、延命化してはどうかとの御意見についてでございますが、まず、この上対馬病院の建て替えは、事業主体である長崎県病院企業団側からの提案でありまして、市に相談があった話でございますので、市として大改修の検討を行う予定はございません。

市といたしましては、将来にわたり市民が安心して医療サービスを受けることができるよう、2次救急医療機関として、当初の予定どおり上対馬病院を建て替え、存続させていただきよう、長崎県病院企業団へ強く要請してまいります。

この大改修につきましては、病院の建物の法定耐用年数は39年となっております。そしてまた、それよりも実際に病院の建て替えにつきましては、さきに空調や給排水等の設備の更新が大体15年から20年でされているということでありまして、このことにつきましては、病院企業団の関係者のほうと話をさせていただきましたけれども、上対馬病院につきましては、建物自体よりも、今申しましたように、この給排水等の配管が、もうどうしようもないというようなことでありました。

次に、上対馬病院が診療所とならないように、市としてどのような手を打つかということでございますが、市といたしましても、上対馬病院建て替えに当たっては、長崎県及び長崎県病院企業団と共に最大限事業費を縮小させるため、必要な建設規模などの精査、縮減に協力して取り組んでまいりたいと存じます。

また、国に過疎対策事業債の利用額の増額を要望し、財政的に有利な制度を最大限活用することで、資金確保の負担軽減を図り、上対馬病院建て替えを長崎県及び長崎県病院企業団と共に実現したいと考えております。

次に、上対馬病院建て替えについて、市長からは現在の機能維持を求めるとの答弁があったが、本当にそれでよいのか大いに疑問があるとのことでございますが、この機能維持の件につきましても、長崎県病院企業団側から市に相談があった話であります。ただし、今後の経営状況や運営

形態などにより、長崎県病院企業団から相談があれば、協議しないとのことではありません。正当な理由で、納得ができる内容の協議であれば、適宜検討してまいる所存であります。

いずれにしましても、先ほど申し上げましたとおり、市といたしましては、将来にわたり市民が安心して医療提供を受けることができるよう、当初の予定どおり上対馬病院を建て替え、存続させていただきよう、長崎県病院企業団へ強く要請してまいります。

次に、（仮称）北部対馬アクションプランの場合、上対馬病院の将来像について、地域包括ケア構築に向けてどう取り組んでいくのかを中心に所見を求めるとのことですが、（仮称）北部対馬アクションプランは、市民と行政が地域内外の協力者と連携しながら、力を合わせて地域振興を進めていくための行動指針となるように、計画の策定を進めております。

その場で、上対馬病院の役割として、北部対馬市民の健康を支え、地域に根差した病院を目指す将来像について考えることは、その一部分としてはあろうかとは思いますが、しかしながら、複数の分野にわたる地域包括ケアシステムを構築するには、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスを考えていかなければなりません。

そのため、（仮称）北部対馬アクションプランとは別に、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画によりまして、保健部が中心となり、関係機関と連携しながら、地域包括ケアシステムの深化・推進を図っております。

今後も上対馬病院をはじめとした関係機関と一致団結し、北部地域の高齢者が住み慣れた場所で自分らしい暮らしを最後まで送れるように、支援体制の構築に取り組んでまいります。

次に、上対馬病院の建て替え予定地を白紙に戻す考えはないかの質問でございますが、令和7年第2回定例会の一般質問でも申し上げましたが、白紙に戻す考えはございません。まして、この貿易振興と市民の命を守る、大切な、この上対馬病院建て替えを天秤にかける気持ちはありません。

次に、今後の対馬市における貿易振興策について所見を求めるとのことですが、韓国釜山に近接する本市の地理的優位性は、ほかにはない最大の強みであり、これを生かした貿易振興は、観光業と並ぶ地域経済活性化の柱となり得ると認識しております。

古来より、朝鮮半島と日本本土をつなぐ国境の島として栄えてきた本市にとって、ヒト・モノ・カネが循環する貿易の振興は、人口減少対策及び地域経済の活性化において、極めて重要な鍵を握っていると考えております。

昨今、民間事業者において、韓国からの水産物輸入や加工貿易に向けた具体的な動きが始まっていることは、本市にとって大きな好機と捉えており、行政としてもこの機運を逃さず、後押しをする必要がございます。

また、庁内の体制につきましても、課題解決に向けた部局間連携など、市内の状況を見ながら、

今後の必要性を注視してまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） 1番の（1）については、市長と特に①のところについて、全国の医療機関が今、大変な状況にあるということについては、同じ考えだなというふうに受け取りました。

ただ、2番目についてなんですが、やはり、県には上対馬病院、現在の診療科目の維持を強く要請しているということだったんですが、これ、建設するとしたら、もうあと50年は使わなきゃいけない。その50年先を見たときに、今のその診療科目でいいのか、これから必要とされているのは何なのか。特に上対馬病院の場合は、一般病床を全て廃止して地域包括ケア病棟に、これ、全国でも特異な形だと思います。こういった方向に進んでいるということであれば、今の診療科目でいいのかということところからも、市民の声を聞きながら、現場の声を聞きながら、今から考えていかなきゃいけないのかなということ提案させていただいておりますので、御理解ください。

それから、（2）番目なんですが、上対馬病院の診療所化を回避するために市が行ってほしいことについてなんですが。市は大改修の検討を行わないと、もう断言されておられました。それから、法定耐用年数40年、空調、排水が15年から20年で更新が必要で、配管が大変弱っているという指摘がございました。

これ、ちょっと後から言おうと思っていたんですが、市長も参加された——ちょっと待ってくださいね。11月に行われた会議に参加されたのではなくて、資料だけ送られてきたんですかね。令和8年度の企業団の当初予算の方針についてというのが送られてきましたね。市長も御覧になりましたか。部長だけ。（発言する者あり）副市長は見られましたか。

その中で、この企業団の厳しい経営の上に、また、上五島病院、上対馬病院の新築建て替えですね。それと、壱岐病院の増改築等財政状況は厳しい状態だと。それだから、特に建て替えを計画している病院については、新たな医療機器の購入を辛抱してほしいというようなメールが私のところにも届いておりました。

これ、今現在建て替えるから我慢してくれと言われていますが、この経済状況とかいろんな状況、市長も把握されていると思います。またこれが延びることになれば、建て替えるから我慢しとけっていうのがずっと続く、そんな心配もされるじゃないですか。

そうであれば、今の段階で新築ではなく大改修で、病院として建て替え直してもらえないかということ協議することは、何も悪いことではないと思うんです。将来どういう形にしていこうかということ、市民それから現場の医療従事者と一緒になって話し合う場を持っていただけま

せんかというのが私の思いです。

頭ごなしに、もう決まったことだからではなくて、そこを柔軟に考えていただくわけにはいきませんか、市長。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身も、これを強引に建て替えに持っていくという気持ちじゃございません。このことにつきましては、まず、この長崎県病院企業団の関係者のほうからも、上対馬病院については、建物自体の躯体は、ある程度、我慢はできても、何せ、先ほども申しましたように、この給排水のほうも、もう早く更新をしていかないと、今現在の病院の中では入院患者もいらっしやる中で、そこでガタガタ給排水の設備をやり替えるということは考えられないというようなことでありました。

実際に、私も、対馬市の四季の会という官公庁の関係の懇親会の中で、対馬病院の院長先生のほうと、このことについて、ちょっといろいろ参考までにお話もお聞きしたんですが、やはり、院長先生のほうも、まず、躯体よりも、この給排水の関係が、もうどうしようもないということで、私と同じように。やはり、そこは普通の建物であれば、少々我慢してでも工事はやれるでしょうけど、入院患者がいらっしやる中で、その給排水等をやり替えるっていうことは難しいですよというような話でございました。

そういう関係もあって、私もこのことについては、やはり大改修じゃなくて、病院としては建て替えるべきだというふうに考えているところでございます。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） 今、院長という言葉がありましたけど、院長とは、上対馬病院の院長ですか。（発言する者あり）対馬病院の院長ですね。

10月に行われました運営会議、副市長、出席されておりましたね。総務部長も保健部長も出席されておりました。

これ、どこまで言ったらいいのか難しいところなんですけど、市長もお聞きになっていると思います。今、うなずかれましたので。ただ、市民が何のことを言っているか分からないと思いますので、関係者からということにしておきましょう。このまま新築という形でいいんだらうかという発言もあっております。ぜひ、その関係者も、長崎県病院企業団とも、もちろんいらっしやる人ですから、長崎県病院企業団とも話はするところもあるんでしょうけど、市もどういうふうを考えているのかということに非常に懸念されておりました。ぜひ、市長ともお話をしたいというふうにおっしゃられておりました。ぜひ足を運んでいただいて、直接お聞きいただければと思います。聞いてそのとおりに、もちろん、すぐしてほしいなんて言っているんじゃないですよ。もちろん、市長は市長の考えでされればいい。ただ、お話だけでも聞いていただけないかということで、今、

提案させていただいています。

その会議の後に、やっぱり年に1回だけ、病院と議会それから市役所、そういった関係者が集まって話をするのではなくて、年にもう少し複数回、こういう話をできるようにできないかという提案もあっております。それも受けて、まだ決定ではないんですけど、総務文教厚生委員会のほうで閉会中の所管事務調査、ちょうど先ほども申しあげましたけれども、地域包括ケア病棟に変わったばかりですので、その後の状況等も調査して、それ以外のことも含めて、今後の在り方についてお話ができる機会をということで、所管事務調査が終わった後も会合を持とうかとしています。そのときには、正式な場ではなかったんですが、懇親会の場で、対馬振興局長それから議長、ほかにも、よろしければ市長も来ていただいて、現場の方の話、それから逆に、市長の思いも伝えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、長崎県病院企業団と、また病院関係の関係者会議の中でそのような話が出たということは、副市長のほうから、帰ってきてすぐに報告がございました。

私もそのことでちょっと、まず、長崎県病院企業団のほうから、そういった給排水等が、ちょっと更新をしなくちゃ、あと何年もつか分からないというような、そういった危機的な状況も話を聞いておりましたので、何でその関係者の方がそういうことを言われるのか理解に苦しむところでありましたので、その後、先ほど申しましたように、対馬病院の院長先生のほうにその状況をお聞きいたしましたら、やはり、躯体はまだ確かに大丈夫なんだと。しかし、給排水等の、もう配管、これがもうやり替えないと、本来であれば15年から20年ぐらいで、普通、この病院等は更新をするらしいです。

そこで、特に上対馬病院は、何かそこが、もう本当になかなか待つことが困難な状況らしいということで、院長だけじゃなくて、ほかの関係者からもそういうふうに伺っておりますので、私といたしましては、やっぱり、この北部市民の命と健康を守るためには、これをぜひともやっていかななくてはならないものというふうに決意しております。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） 配管のことはよく分かりましたし、それに対応するために、もう新築じゃないと駄目なんだという市長の強い思いも、今、伝わりました。

令和6年3月の議会で、市長が当初、建て替え地選定を再検討しないと発言した理由は、「現在の建て替えのスケジュールでは、令和10年3月の開院に向け順調に建設が進んだとしても、約4年の月日がかかる。今から新たに候補地を再度見直すとなると、さらに月日を要することから、一層老朽化が進み、令和6年度には耐用年数を迎える病院の現状を考えると、一度白紙に戻すことは考えていない。一日でも早く開院することが地域住民の皆様の安心、安全につながると考え

る。」と、今と全く同じ答弁をしていただきました。

ところが、今年3月の長崎県病院企業団議会で、上対馬病院建て替え計画の後ろ倒しが公表されました。

このパネルを御覧ください。上は変更前のタイムスケジュールで、下は変更後のことについて書いてあるものです。

これを見れば、後ろ倒しになったことで、改めて計画を再考する期間が生まれていると私は思います。当初、令和7年1月には基本設計の準備に取りかかる予定が、早くとも令和9年度の中頃、つまり2年半以上も後にずれ込んでいます。それなのに、この8か月余りの間、長崎県病院企業団マターのことだから対馬市は口出しできないというかのように、有効な手だてを打とうとはしてこなかった。そういうふうに私は思っています。

対馬市は、企業団病院に対して応分の負担をしているのですから、それに見合った、「どういふ病院にしてほしい」という要望をもっと出してもいいと私は思います。

今日から数えても、再検討する期間が1年半以上残されているんですよ。竣工・開院は3年以上後ろ倒しになります。そうなれば、世の中の情勢も大きく変わります。先ほども申し上げました。それに対応するためにも、市民や現場の上対馬病院の声を聞き、当初計画のもう一度、再検討するというか、声を聞こうということは考えられませんか。

冒頭の質問で、上対馬病院の沿革に触れました。行政が病院の経営に一步、いや二歩も距離を置き始めた時期は、離島医療圏組合から長崎県病院企業団に組織変更した時期と重なると私は感じています。その組織変更を承認するか否かを審議した議事録を改めて拝読しました。当時の議員は真剣に、喧々諤々議論なさっています。心から敬意を表します。

ところで市長、当時の厚生常任委員会と本会議の採決結果を御存じですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私のほうは、確認はしておりません。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） うん。では、少し残念ですが、委員会では、企業団への加盟は否決され、本会議では、逆転して加盟するほうが賛成多数で可決されています。その審議の過程で、加盟に反対する議員が最も危惧していたことは、市長、一体何だったと思われませんか。（発言する者あり）はい。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） 「対馬市の病院経営・運営への関与が薄くなり、地元の意見・要望が通りにくくなる」。これは委員長の報告から抜粋しました。ということが大いに危惧されることが、病院企業団への加盟に反対する最も大きな理由だったと私は認識しています。

加えて、先ほど申し上げましたように、病院を建てるから我慢してくれと、一方的と捉えてしまうのは私だけでしょうか。それでも必要なものは購入していただきたい。こういう状況だと、雨漏りしても対応していただけるのだろうか。そこまで心配しています。

市長、離島医療圏組合の上対馬病院の理事長は誰であったかお答えください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 離島医療圏組合の病院の理事長は、恐らくその当時の町長であったろうというふうに思っております。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） そうです、そのとおりです。合併以前は上対馬町長、合併後は対馬市長が理事長として経営・運営にも携わってくださっていました。経営母体が変わったとしても、企業団のトップが企業長であったとしても、市民の命と健康を守る第一義の責任者は市長、あなた自身だと私は認識しています。

先ほどの市長の考え方も十分分かります。市長の考えでこういう方針をしているんだっていうのも分かりますし、私も心配して、本当に新病院、後ろ倒しになってもできるのか、それぞれ結論は違っても、市民のことを思っている行動だというのは十分理解しています。

11月17日に、私は同じ長崎県企業団病院議員の針谷議員と一緒に、上対馬病院長谷川院長、立花事務長それから永野総師長と、今後の上対馬病院の将来像についてお聞きして、私たちからも意見を言わせていただいて、そういう機会を設けていただきました。現場は、先ほども申しましたが、長崎県病院企業団だけでなく比田勝市長に直接話を聞いてほしいと、そういうことも望んでいらっしやいました。

さて、先輩議員の「地元の意見がないがしろにされるのでは」との心配が現実になっているんじゃないか。それも長崎県病院企業団マターではなく、長崎県病院企業団のほうからではなく、市長が遠慮されて、意見をまだ具申することをはばかっているのではないか。そういうふうにも受け取られかねません。

市長、お願いします。そんなことはないと私に反論してください。言うことは言うんだということをおっしゃっていただきたいと思います。いかがですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変、私に対して失礼ですよ。（「いやいやいや」と呼ぶ者あり）もう。要は、これまで、この長崎県病院企業団また議会側も、いろいろな深い議論をされた上で、今現在このような形になってきているものと、私自身思っております。そういった過去の先輩議員、関係者の方たちに対しても失礼だというふうに思いますし、私自身、長崎県病院企業団のほうとは院長はじめいろいろと、私個人だけではなくて関係部長等も含めて、いろいろな要望をす

るところは要望を重ねながら、よりよい病院となるように話を進めさせていただいているところ  
でございます。

今、議員の質問では、私が何も長崎県病院企業団側には申立ても話もしてないみたいなことで  
質問がありましたけど、決してそういうことではない。私自身、担当じゃなくて、あくまで企業  
長と、特にいろいろと話をするところはさせていただいているつもりでございます。

そういうことで、こちらとしても今後も流されることなく、今、議員も言われたように、こち  
らの要求は強く要求をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） 失礼だというふうに言われたのを真摯に受け止めます。

ただ私の思いとしては、けしかけるつもりはありません。ありませんでした。ただ、今、市長  
が本当に失礼だと私に言うぐらい、そういう気持ちで取り組んでいるということを本当に、市民  
にも言ってほしかった。その気持ちも御理解ください。

ところで、概算で結構です。上対馬病院建て替え総工費は、当初予算が幾らで、後ろ倒しされ  
た計画では幾らになっているかお答えください。

○議長（春田 新一君） 保健部長、阿比留正臣君。

○保健部長（阿比留 正臣君） お答えいたします。

令和5年2月段階で、当初お話があった話では約20億円でございます。その後は金額的な提  
示はございませんでしたけれども、かなり増額されているというふうに思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 11番、脇本啓喜君。

○議員（11番 脇本 啓喜君） 「かなり」では、少し具体性に欠ける。今どれだけ本当にかか  
るのかを考えないと、本当に大変申し訳ありません、新築で本当にできるんだろうかというこ  
とに検討もできないじゃないですか。

長崎県病院企業団の総務部長にお聞きしたところによると、当初、今おっしゃるとおりです。  
約20億円、20.6億円ですね。それで、現在、約2倍の40億円に上ろうかとしているとい  
うことです。市長もうなずいていらっしゃいます。現状分かると思います。もちろん、私も後ろ  
倒し計画どおり病院として新築していただけることが理想的だと思っています。しかし、政治は  
100%かゼロか、それでは駄目じゃないですか。転ばぬさきのつえとも言います。このまま長  
崎県病院企業団が言う上対馬病院建て替え後ろ倒しを待っていたら、市民が危惧しているよう  
なことも心配しなければいけない。

では、そのことについても独自に考えておこうというのはリスクヘッジのことからも必要じゃ

ないかということ、申し訳ないです、もう一回言います。私も、この後ろ倒し計画どおり進むことが理想だと思っています。ただ、そうじゃなかったときのことも考えておかなきゃいけませんよねという話をさせていただいています。御理解ください。

先日、ある議員から、「脇本議員は口ばかりで、住民を集めて上対馬病院建て替え計画の現状を伝えたり、自腹切ってアンケートでもすればいいのに、何もせんね」と御批判を受けました。真摯に受け止めます。長崎県病院企業団議会の報告をさせてもらえなかったとか、一般質問してなかなか市長とかみ合わないとか、そういう言い訳をしても何の解決にもなりません。

12月24日に開催される長崎県病院企業団議会でも、この件について一般質問を行う予定です。市長の考えもしっかり受け止めてやってまいります。アンケートは間に合わないとしても、より多くの方々から御意見、御要望をお聞きして望む所存でございます。市民の皆様、どうか皆様の声をお聞かせいただきますよう、この場を借りて改めてお願い申し上げます。

さて、ただいま北部市民と限定せず市民の皆様と訴えさせていただいたのは、この上対馬病院建て替え計画は市民全体の医療に関わる問題であると認識してほしいからです。

想像してみてください。もし上対馬病院が診療所化されたら、ちょっとしたけがであっても、救急患者はほぼ対馬病院に搬送されることになるでしょう。また、上対馬診療所となれば病床がなくなり、入院患者は対馬病院に集約されることになり、病床不足となることは明らかです。さらに、DPCを導入していない、つまり入院日数制限が比較的緩い上対馬病院では、この10月から一般病床を全て地域包括ケア病床として、社会的入院や在宅でお世話する家族が休める短期預かり入院とも言えるレスパイト入院も受け入れやすくなっています。しかし、これらの入院患者が対馬病院に転入院されるとすれば、夜間の徘徊患者がさらに増えるなど看護師等の負担はさらに増して、多くの離職者が生まれると危惧されます。

時の流れで、いつかは上対馬病院の診療所化は免れないでしょう。しかし、それを少しでも後倒しできるように努めていくのが、我々対馬市の政治家の使命だと私は思っています。

以上です。

○議長（春田 新一君） 脇本議員、時間が来ていますよ。

○議員（11番 脇本 啓喜君） はい。

○議長（春田 新一君） これで、脇本啓喜君の質問が終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を11時10分からとします。

午前10時51分休憩

午前11時10分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 皆様、15番、対政会の大浦孝司でございます。

本日最後ということでございますが、ひとつ、漁民の思い、このことを力強く行政へつないで、これをどうするか、比田勝市長、あなたがこの組織の中で、皆さんが安心するような、納得するようなコウシンを、私は今回、特に考えていただきたい。かような思いで一般質問に臨みます。

それでは、一問一答を、時間がかかることに私はなるような気がいたしますから、読み上げの文章については、簡単明瞭に質問の内容を絞り込みたいと思います。

ただいまから、市政一般質問を行います。

藻場の自然増殖について、このことについて美津島町賀谷のNPO法人が、このカンドクの中で、藻場の、これは、ここに写真がありますように、自然に2022年から成長した藻であります。このことを3年間追ってきた内容について、私はこの場で報告したいと思います。これが1点目。

それと、私、全島を縦に西海岸・東海岸、常に回っております。その中で、西海岸の漁師さんが非常に暗い顔をしております。アカムツは5年前、かなりの水揚げをして潤ったことがございましたが、じわじわ、沖合の底引き、あるいは、まき網等によって、かなりの水揚げが落ち込んでおります。どうかすれば、恐らくこの朝鮮海峡、日本の海域の中でアカムツが激減してしまい、大きな、沿岸漁民にとって、心配して、これをどうかしていただきたいという思いがございます。

この2点について、市長の、まず所見を聞きたいと思います。その後、一問一答で具体的にやり取りをしてみたい。かように思っております。どうかよろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、藻場の自然増殖についてでございます。

議員御指摘のとおり、対馬沿岸の藻場は、近年の海水温の長期的な上昇と、それに伴う食害生物の増加により、アラメ・カジメなどの大型海藻が消失する磯焼けの拡大が進み、危機的な状況にあると認識しており、これは本市の水産業にとって極めて深刻な問題であります。

御質問の、最近確認されている藻場の状況について市が把握している情報では、限られた海域においてでございますが、御指摘のとおり、在来種に加え南方系の海藻類の繁殖が確認されていると聞き及んでいるところでございます。

特に、鴨居瀬地区においては、今年度、天然のヒジキが乾燥物で約250キログラムの収穫があったとの報告を受けており、これは環境条件が局所的に好転した非常に明るい兆候であります。

また、三浦湾地区においても、近年、南方系の海藻種でありますキレバモクの群生が広がるな

ど、僅かながらではありますが藻場の回復傾向が見受けられております。

さらに、この回復した海藻群落の中におきまして、水産資源として重要なイカの産卵も確認されておりまして、海の生態系が豊かさを取り戻しつつある兆候として、大変心強く感じているところでございます。

この藻場回復の要因といたしましては、同地区の漁業関係者の皆様が長年にわたり熱心に取り組んでこられた、海藻を食害する食植性魚類やウニの駆除活動の成果も大きく寄与しているものと考えているところでございます。

他の海域でも、この南方系の海藻や小型の褐藻類が増えてきている海域があることも報告されています。

これは、自然環境の変化に対する適応の動きと捉えられ、これらの藻類が、かつての豊穡な藻場を完全に代替できるものではありませんが、磯根資源でありますサザエやアワビの餌や稚魚の成育場になり得ると考えられております。

市といたしましては、このような自然増殖の動向を引き続きモニタリングしつつ、人工的な藻場造成や、磯焼けの原因となる食害生物の駆除を継続することで、対馬の多様な藻場を回復させるための対策を継続してまいります。

次に、アカムツの沿岸操業の実態についてでございますが、対馬周辺海域で魚獲されるアカムツは、その脂の乗りの良さと品質の高さから、市場において極めて高い評価を得ております。

特に、対馬で魚獲されるブランドアカムツは、本市の水産物を象徴する宝であり、地域経済を牽引する重要な魚種であると認識しております。

しかしながら、近年の海洋環境の変化や魚獲圧の高まりにより、その資源量は予断を許さない状況にあります。

市における現状の把握についてでございますが、各漁業協同組合からの水揚げデータに加え、日々操業されている漁業者皆様からの情報により、アカムツの水揚げが近年著しく減少している実態を、極めて深刻な事態として認識しております。

特に、かつてのような良型が減少し、漁場環境が厳しさを増している現状は、漁家経営の根幹を揺るがしかねない重大な問題であると受け止めております。

この対策につきまして、まず強調しなければならないのは、本市の沿岸漁業者の皆様の大変な努力であります。

対馬の漁業者の皆様は、将来の資源を守るため、操業の自粛など痛みを伴う資源管理活動に、自主的かつ懸命に取り組んでこられました。市といたしましては、こうした沿岸漁業者の取組を今後も尊重し、継続的な支援を行ってまいります。

しかしながら、漁類資源は、沿岸漁業者の努力だけで全て解決できるものではございません。

特に、沖合域で操業を行う底引き網漁業の影響については、多くの沿岸漁業者から懸念の声が寄せられていることも承知しております。

したがって、今後は資源保護の輪を、沿岸だけでなく沖合漁業にも広げていくことが不可欠であり、対馬市漁業協同組合長会や、広域的な漁業調整権限を持つ水産庁や、長崎県等の関係機関と緊密に連携を図ってまいります。

その上で、対馬周辺海域を利用する沖合底引き網漁業者の方々に対しても、本市の沿岸漁業者が行っている資源管理の実情を伝え、資源保護への理解と協力を継続していく考えであります。

双方が納得できるルールづくりや協力体制を築くことは容易ではありませんが、対馬の宝でありますアカムツを枯渇させるわけにはまいりません。市といたしましては、県や関係団体と協力し、沿岸漁業と沖合漁業が共存できるよう、持続的に発展できる資源管理体制の構築に向けて、粘り強く働きかけを行ってまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。

ここの前にある海中の写真でございます。この写真の実績は、美津島町の賀谷沿岸に、2022年から、そういうふうな藻場が僅かながら発生し、それが広がって今にあるということでございます。

それで、これはキレバモクという品種が南方系ということで確認を取っております。このことを常に管理しておる、モニタリングをやっておられる組織を紹介いたします。NPO法人 対馬自然共生ネットワーク、賀谷の鎌田衛様でございます。

それで、話をずーっと聞いていったら、この春藻場という言葉が出てきます。春藻場。2、3月に芽が吹いて、それが夏を過ぎると、残念ながら全て枯れていくという意味です。ですから、半年の寿命ということになります。それが春藻場の特徴で、全て対馬の海域にこれが繁茂すれば、全て解決することではないようです。ここのところを市長、少し注意して聞いてほしいと思うんですが。

私は、過去にこういうふうなことを言うた覚えがあります。令和4年9月20日の所管事務調査の折に、私は産業関係の委員会に所属しておりまして、対馬栽培漁業振興公社の経営現状ということで説明を聞いたんですが、その中で、もう既に藻が壊滅しておるといふような情報がある時期やったんです。

そのときに、アワビの放流事業をやっておるといふふうなことを聞く中で、「藻が育成しておらない場所にアワビを放流してどうなるの」。このような非常に初歩的な疑問を思いまして質問したわけですが、補助事業の実施の観点からやむを得んことがあったのは後で分かったんですけ

れども。

そのときに、対馬栽培漁業振興公社の目的は魚介類の、要は、そういうふうな稚魚・稚貝を放流する技術の世界であって、藻を栽培するというようなことにはないというお話を賜りまして。しかし、今このことに力を入れん限り、稚貝もあるものかというふうなことで、私はそういう強い意見を述べたわけですが、そういうふうにはなっておらないよというふうなことで、私はそうではないだろうと再三にわたって食いついたわけですが。

最近になって、対馬栽培漁業振興公社の在り方も変化しておるということを耳にしましたが、市長、その辺の今の取組を、ちょっと説明をしてください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに対馬栽培漁業振興公社は、当初の目的がアワビ・サザエ等の貝類の生産そして放流がメインの目的でございます。そのほかに収益事業として、対馬の真珠の稚貝等も生産をしているところでございますが、近年は、議員おっしゃられるように、この対馬の磯焼け現象がもう激しいということで、この対馬栽培漁業振興公社のほうにおきましても、県のほうから、この藻場の幼体っていいですかね、そういったところを育てて、それをブロックに貼り付けて、将来的には藻場を広げていこうという、今、取組をされておりますけれども、そのための、その藻場、ブロックに貼り付ける幼体を対馬栽培漁業振興公社のほうでも生産をしているところでございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 県の依頼を受けることを含めて、この問題はどんどん前に進めるべきだと思うんです。藻さえ作れば、アワビ、サザエ、全てのことが解決するんです。

ところが、その中の、県が推奨しておる試験的な藻の名称は、何という藻を栽培しているんですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私が聞いているところでは、今、議員おっしゃられたようなキレバモクという話を聞いておりますけれども、そこにつきましては担当部長のほうから、また詳しく答えさせます。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

県からの発注によります藻場増殖プレートについてでございますけれども、これは議員御指摘のように、まず、春藻場としてキレバモク、それからマメタワラ、ヨレモク等、これをプレート約300枚を年間生産するように委託を受けているところでございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私は、それはそれで今まで取り組んだことを無駄とは思っておりません。しかし、現実には沿岸の一部において、キレバモク、または、これは裏にありますがイソモク、これ、賀谷の春藻場でございますね。

先ほど言いますように、春の藻というのが9月以降、減びていく。そして、次の春に芽を出して再生すると。このことは、貝類にとっては、餌が不足する世界に生きていけるだろうか。これは、そう思うのは当たり前だと思います。

しかし、壊滅したという意味は、高水温のどうかしたら30度ぐらいの熱が、その海の20メートル前後ではあるそうですよ。そういう世界ですから、もう南方に近いじゃないですか。

だから、今の春藻場、これは南方系で育ちますよということで立証がされて、無駄なことじゃないが、半分はこの海の中に育たない、枯れていく。そう思うときに、1年中生息する藻、これを追うていくのが行政の試験機関の、私は最大の今、対馬の中で求めないかんことであると。その言葉は、春夏秋冬、これは四季です。4つの季節の四季。四季藻場という言葉になるそうです。

これを私は、長崎県はもとより、対馬市もこの問題に総力を挙げて方向を絞っていただきたいと思います。四季藻場の形成を、この東海岸・西海岸に定着させるだけの種苗を、あらゆる地域から種苗を確保して、栽培漁業センターの中で県とスクラム組んで、私は、それをこれからやっていただきたいと思います。

何回も言いますが、年間を通じて藻が繁茂せん限りアワビの成長もないでしょう。そういう意味で、そういう方向の取組を県とも協議しながら取り組んでいただきたいと思います。このことをお願いしたいのが、今日の話の一つの大きなポイントだと思っております。

それともう一つは、春藻場の中でアワビがどれだけ生きていくか。これをやはりやることも、私は現段階では必要だと思います。ですから、3月、4月の頃に放流することを、単独で構想で私は、この中のどこかに浅瀬でいいですから、これを活躍させることで1年間もてるのか、これを試験的に実施していただきたいと思います。できれば、来年度の予算編成の中で、そういうふうなことを取り組む。非常に、もしそれでアワビが育てれば、私はそれで一つの方向性が、じわじわ広がると思います。そして、あとは四季藻場の形成。これに全力を投入していただきたいと思います。

藻場のことは、私はこのことが、今申し上げたことが、全てのことだと思っております。ほかには、ちょっとチェックします。

そういうふうなことになりますので、いろいろ対馬海域の中で、沿岸の中で、そういう自然増殖の箇所を調査されることも必要ですから、漁民と連携を取って、水産課の中で部長さん、これをひとつ把握されて、対馬に自然増殖した春藻場がどれだけあるか、これ、また数字的に把握をお願いしたい。かように思います。

ほかにもございますが、時間があまりございませんので、アカムツに移りたいと思います。

先ほど、ちょっと私、資料を読み上げりゃあよかったと思ったんですが、平成15年に、丸々、磯焼けが幾らか進む中でも、まだまだやってきた頃のことなんですが、貝類それから採藻含めて10億円の売上げが実績として上がっております。この10億円を取り戻すために、事を進めるというふうな心意気でございます。

農林水産部長、このサザエやアワビ、それから藻類の売上げがでございます。そして、この数量においては1,152万トンという大きな数字が上がっておりますが、このことについて、部長、その過去の取扱いと、最終的な、令和6年が実績ですが、この数字に令和6年の数字をつかんでおりますか。その落ち込んでいった数字の内容を。これをもし分かれば、それを最後に報告もしてください。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

サザエ、アワビを主体としました貝類の水揚げでございますけれども、令和5年の実績ではございますが、全体で、アワビが0.6トン、それから、サザエが317トンとなっております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 令和5年度ですが、令和6年の昨年は、これは物すごくかなり激減した数、それ以下になっていると思います。それだけのスタートを切り直さないかんという思いで取組を、ひとつ水産課の方については、また力を入れていただきたい。

次に、アカムツのことに進みたいと思います。

現在、アカムツの、はえ縄の対馬での船団の構成でございますが、上対馬町、比田勝港、泉港、約10隻。上県町、鹿見、久原、伊奈、御園、仁田、40隻。豊玉町、水崎、13隻。巖原町、小茂田、8隻。71隻の操業が現在っております。これは、漁民の方から直接聞いておりますので、漁協と統一の見解ではございませんが、あくまでも聞き取りでした話でありますから、そういうことを御承知ください。

漁獲実績、これはちょっとメモしとってください。5年前の令和2年は、一つの基準になると思いますので、このことについて申し上げます。

合計で228トン、令和3年が222トン、令和4年が203トン。ところが、ここからぐっと下がってきまして、令和5年が100トン、令和6年が61トン。これは、物すごいことが起きているということですよ。

市況ですが、これは非常につかみにくいです。販売する先が東京豊洲市場、あるいは福井市、あるいは金沢方面とか、物すごくその辺の把握はしにくいですが、現在の価格は幾らすとですかと。1キログラム1万円を超えていますよ。これは過去にないでしょう、魚の値段が1キログラム1万円。1キログラムですよ。マグロだってそんな値段じゃない。こんなことが起こってい

るんですよ。これはこのままでいけば、朝鮮海峡、対馬海域の中でアカムツはなくなりますよ、そのままにしておれば。

それで、対馬の漁師さんは、はえ縄ですから、6マイル手前で操業しています。それから、7マイル沖合が底引きというふうになっております。

しかし、底引きの問題だけじゃない話がございます、その他の操業の実績において、アカムツが底引きと足した場合に相当な水揚げが進んでいるというふうなことを言葉では聞いております。その方法はどうかというのは、私は申し上げられませんが、間違いなくアカムツを狙うて対馬海域に大型船が寄っておりますよ。その数をチェックしたら、底引き24隻ですよ。

農林水産部長、まき網のその海域の操業、船団の把握はしておりますか。知っておれば教えてください。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

大臣許可によります大中型まき網漁業についてでございますけれども、これは、対馬近海で3つの海区に分かれておるような状況もございまして、混在をしております。

ただ、今日は詳細な資料を持ち合わせておりませんので、また後ほど報告させていただければと思います。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 市長に進言しておきますが、激減しておる理由は、底引きだけじゃなく、まき網もそういうふうな実績があつておるということをお漁民の方が申されておりますので、そこを含めた中で話し合いというのは、このままいけば、アカムツはほとんどなくなっていく方向にある思いです。ですから、皆さんは行っても釣れないから、もう全く以前と違う在り方で、望みが薄い考えにあります。

ここで市長、こういうふうな場合、資源を管理調整することでの、先ほどの発言の中で私、このことを今から、漁民をまとめて、漁協をまとめてその方向づけを、話し合いをする必要があると見とるんですが、市長の意見を伺いたしたいと思います。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、先ほども冒頭、答弁いたしましたように、このことについては危機感を持っているところでございますので、漁協の組合長会を中心にしていただいて、関係漁業者との協議は持ちたいと思っておりますし、ただ、今、話がありましたけど、このまき網漁業等は大臣許可になっておりますので、このところが、どのような形ですれば是正、改善ができるものかも併せて研究しながら取り組んでいければなというふうに思っておりますので、また関係者の皆様と、ちょっとそこら辺は相談をさせていただきたいと思っております。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 農林水産部長にお願いいたします。私の、先ほど申し上げました5年間の概略の、つかんだ実績なんですけど、正式に関係漁協に照会して、その取り組んできた船の、あるいは人数、どれだけの方がその漁に参加されとったのか。そして、幾ら取って、幾ら揚げたかというのを、やはり10年ぐらい遡って資料として持たないと、国や関係団体との協議に通用しませんので、そういうことを、ひとつ早急にまとめていただけないでしょうか。そうしないと、全体の話の基本がそこから来ますので。

そして、先ほど言いますように、農林水産部長が、関係する漁協組合長の、あるいは操業の代表の方々の意見を聞いて、どうしたらいいかというふうなことを話し合ってください。漁民と行政と組んでそういうふうなことをする時期に来ております。

これは、今の操業だけじゃなく、長期の対馬の宝の魚ですよ。これを逃がす、逃がさんは、今にかかっております。ひよっとすれば、新しい方がこの種の魚に興味を持ち、中型の底引きをやってみようというふうな方もおるかもしれん。私は、目の前で大きな資源を取り過ぎないように、そして、対馬漁民がもっと収益になるように、声を描いてほしい。

水産部長、そういうようなことで、ひとつ統計資料を固めていただきたい。いいでしょうか。ちょっと御意見があれば。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

ただいま依頼いただきました、過去10年間の水揚げ等、それから、隻数等の資料につきましては、今現在、令和2年以降の実績はまとめておりますけれども、もう少し拡大をとるところでございますので、これは後ほど、また報告をさせていただきたいと思っております。

それから、今後の資源保護等についてでございますけれども、今現在、先ほど市長も申されましたように、対馬海区における、対馬市漁業協同組合長会と、それから、関係します沖合底引き漁業者の皆様で、これは協定が取り交わされております。その内容につきましては、やっぱり相手方があるものですから、なかなかここでは詳細は控えさせていただきたいと思っておりますけれども、その操業自粛の範囲であるとか操業自粛の期間、こういったものについては、しっかり話をされているようでございますし、市、県とも、そこにつきましては、例えば市の場合、オブザーバーとして、その都度会議に入っておりますので、その辺については、しっかり連携を取りながら取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 市長にお尋ねします。取り過ぎの場合には必ず絶滅していくわ

けですから、それに対する保護区の考え、一定の期間を保護するとか。過去に、たしか前財部市長がこのことについて、一部そんな構想を持つとった頃があったでしょうが、このことについて何か思いがありますか。保護区の設定。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、前市長の財部市長時代に、この対馬の海洋保護区ということで対馬の周りを、たしか10海里まではそういった保護区として魚介類の保護をしたいということで、長崎県や水産庁のほうにも話をしてまいりましたけれども、なかなかその話は受け入れていただけなかったということで、今現在まだまだ、今度は海洋保護区という名前を少し変えまして、資源保護には取り組んでいるところではございますけれども、今後の一つの宿題で、まだあろうかなというふうには思っております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） いろいろ言っても、漁業関係者と、それと行政の連携によって、県と、そして水産庁と、そういう世界で要望を進めていくことが出てくるわけですが。

私は、対馬市長が、その残りの任期の中で、この問題に力を入れて取り組んでいただきたい。それを私は期待しておりますが、市長、その辺の思いを発言してください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身その思いはあるんですけども、ただ、この資源保護関係では、今回の議会の中でもTAC関係の質問もございましたけれども、そのようなことで、これがTACの対象魚種になれば、また対馬のほうでも、逆に漁獲が厳しくなるおそれもあるなということで心配もしております。

しかしながら、私も今後もこのことにつきましては力強く取り組んでまいりたいとは考えておりますけれども、大変難しい問題であるということで、なかなか一朝一夕では、その実現に向けては困難な事業であるというふうに認識しているところでございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私は素人です。一般的に言えば、あれだけのイカを操業自粛してください、イカの対馬ですよ。それを皆様しぶしぶ。この間、その意見を言っていましたよ。そして、目の前のアカムツを大型船が取ってしまう。

やっぱりね、そういうふうなことで事が済まされない世界もございますので、粘り強く、漁民の思いを国に、あるいは国会議員に話をされて、何とかこのことを今より随分改善することになるように努めましょうよ。これが政治です。行政です。

これを期待いたしまして、私は、僅か4分ございますが、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時57分散会

---